



図-5 サヤナカグサ属植物の穂の比較 A: アシカキ, B: エゾノサヤナカグサ, C: 雑種サヤナカグサ, D: サヤナカグサ

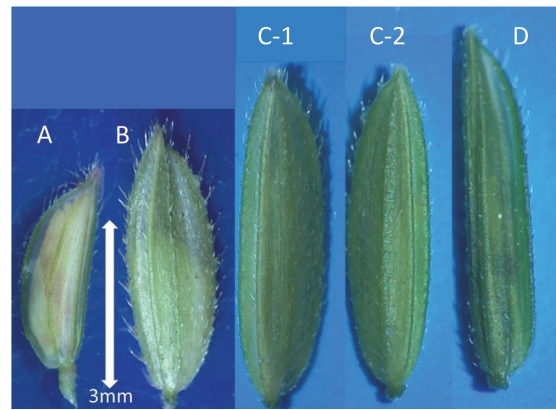


図-6 サヤナカグサ属植物の小穂の比較 A-D: 図-5に同じ, C-1: 千葉県八千代市産, C-2: 長野県飯山市産

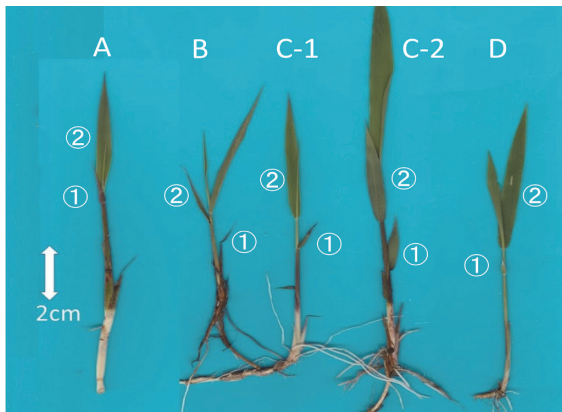


図-7 サヤナカグサ属植物の越冬芽からの萌芽苗条の比較, ①・②: 第1, 第2葉, A-D: 図-5に同じ, C-1: 牛久市植調研究所産, C-2: 流山市野々下産

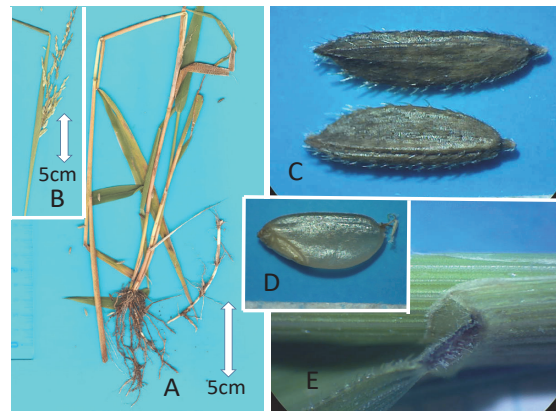


図-8 参考: エゾノサヤナカグサ (*L. oryzooides*) の主要部位の形態 A: 出すくみの穂をもつ個体の全形 (長野県信濃町産), B: 開花時の穂 (流山市大堀川産), C: 小穂, D: 穎果, E: 小舌 (C-E: 流山市芝崎産)

田畑の草種

狐薊 (キツネアザミ)

文吾は貧乏であったが働き者であった。ある日、文吾が山から帰るとき、後ろからひたひたと足音がついてきた。文吾が気持ち悪くなって振り返ると若い娘がにっこり微笑んで、旅のものがもう遅いので今夜泊めてくれといった。明日には出ていくだらうと一晩泊めたが娘は出ていく気配もなく、嬢にしてくれというのではないか。文吾は貧乏者だから嬢にはできん、と断ったが、そんなことは気にしないからどうしても嬢にしてくれといった。

二人が夫婦になって、男の子が生まれた。文吾は今までにまして働いた。男の子は三つになっていた。ある朝、文吾が畑仕事に出かけた後、嬢が男の子に着物を着せようとした時、男の子が「嬢、しっぼ。嬢、しっぼ」と叫んだ。屈んだ拍子に思わずしっぼが飛び出してしまった。嬢は男の子に「おらが狐だと分かってしまってはもうこの家にはおられん。お前はこの家で暮らせ」といって、文吾に文を残して山へ帰っていった。

文吾が家に帰ってみると、嬢はおらず子どもは「嬢、しっぼ。嬢、しっぼ」といって泣いていた。文吾は「さては嬢は狐であったか」としばらく悲しんで過ごしていたがどうしても寂しく、

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

嬢の残していった「恋しくば訪ねて来よ」という文をみて、男の子と一緒に嬢をさがしに行くことにした。文の続きには「わが住まいは、奥山の南の草原にあり、周りには薊が生い茂っていてなかなか近づけないが、ところどころに刺のない薊がある。その薊をたどってくれば会えるであろう」とあった。二人はその刺のない薊を探しながら住まいにたどり着き、それからは三人で仲良く暮らしたということである。(ある地方の説話)

キツネアザミはキク科キツネアザミ属の越年草。本州以南の道端、土手、畦畔、空き地などに生育する。茎はまっすぐに立ち背丈は60～80cm。葉は互生し裏に白い綿毛が密生する。頭大羽状深裂するが全体に柔らかく、刺はない。花期は5～6月、紅紫色の筒状花からなり径は2.5cmほど、上向きに咲く。牧野富太郎によると和名はアザミに似るがよく見るとそうではなく、まるでキツネに騙されたようだという意味でつけられたとされるが、ある地方では猟師に追われたキツネがアザミに化けようとしたが慌てていて刺を忘れたからともいう。

史前帰化植物とされ、1属1種。薊に似た花の中では刺のない薊である。